

市民意見募集（184 件）にみる「羽ノ浦・那賀川以外」の声

— 令和 8 年 7 月 17 日 市担当者との意見交換会 資料（詳細版） —

羽ノ浦図書館・那賀川図書館を守る会

1. この資料の趣旨と方法

阿南市は「『図書のまち阿南』構想」の中で、令和 7 年 10 月～11 月に実施した市民意見募集（総数 184 件）の結果を、地区別・年齢別の人数と、設問 1・設問 2 の割合として公表しています。

本資料は、この 184 件のうち、回答者の地区が「羽ノ浦」「那賀川」以外の 67 件を抽出し、市と同じ枠組みで再集計したものです。図書館の存続を望む声が、当該 2 地区に偏った意見なのかどうかを、客観的なデータで確認することを目的としています。

なお、対立ではなく、市民意見の実像を市と共有し、ともに最適な進め方を探るための資料として用意しました。

2. 客観データ（市公表資料の記載どおり）

① 地区別の回答者数（羽ノ浦・那賀川以外 67 人）

地区	人数	地区	人数
富岡	15	長生	8
中野島	7	未回答	6
市外	5	見能林	5
宝田	4	加茂谷	4
桑野	4	新野	3
大野	2	橘	2
福井	1	椿	1
合計	67		

② 年齢別の回答者数（同 67 人）

年代	人数	年代	人数
18 歳未満	3	18 歳～20 代	1
30 代	12	40 代	11
50 代	12	60 代	8
70 代以上	13	未回答／不明	7

3. 全体（184 人）と「以外」（67 人）の比較

区分	全体 184 人	羽ノ浦・那賀川以外 67 人
設問 1 積極的に推進してほしい	24.5% (45 人)	22.4% (15 人)
設問 1 入念に検討してから推進してほしい	26.6% (49 人)	38.8% (26 人)
設問 2 存続（機能存続を含む）	56.5% (104 人)	46.3% (31 人)

区分	全体 184 人	羽ノ浦・那賀川以外 67 人
設問 2 一部進化	19.0% (35 人)	10.4% (7 人)
設問 2 大幅進化	10.9% (20 人)	14.9% (10 人)

※「以外」67 人の設問 2 は、上記のほか「廃止・集約容認」5 人（7.5%）、無回答・対象外 14 人（20.9%）。設問 1 のその他（反対・無回答等）は 26 人（38.8%）。

4. この集計からわかること

- ・ 羽ノ浦・那賀川「以外」の回答者でも、設問 2 で最も多いのは「存続（機能存続を含む）」で 46.3%。「一部進化」「大幅進化」を上回る単独最多です。図書館としての存続を望む声は、特定地域に偏った意見とは言えません。
- ・ 図書館そのものを無くしてよいという「廃止・集約容認」は、67 人中わずか 5 人（7.5%）にとどまります。
- ・ 設問 1 では「入念に検討してから推進してほしい」が全体より約 12 ポイント高い 38.8%。当該地区外でも、財政・司書配置の明示・情報公開など、進め方への慎重論や条件付きの声が目立ちます。

5. 区分別の代表的な意見（すべて羽ノ浦・那賀川「以外」から抜粋）

設問 1：積極的に推進してほしい

（富岡・No. 14）「阿南市の将来を見据えた未来志向の構想であり、是非ともこの構想を推進していただきたい」

（長生・No. 142）「概ね賛成です。図書館は 1 か所に集中し、充実させた方がいい」

（新野・No. 64）「ネーミングもコンセプトも良いと思っています。町の図書室があれば嬉しいです」

設問 1：入念に検討してから推進してほしい

（市外・No. 11）「『図書のまち阿南』とのことですが、既存 3 館のうち 2 館を廃止とはスローガンに逆行していませんか。各所に図書館を残し、弱者も文化的設備を利用できる環境とするべきでは」

（宝田・No. 130）「補助金をあてにするのではなく、身の丈にあったものを。資料には司書職員配置について一切書かれておらず、情報公開として不十分」

（未回答・No. 182）「コンセプトは大変すばらしいが、まったく実情にそぐわない。いくらかけ、いつまでに実現するのか、ロードマップを示してほしい」

設問 2：存続（機能存続を含む）

（見能林・No. 99）「『図書のまち』なのに 2 館の機能（貸出・司書）を外すのは変です。今までどおり、図書館として 2 館残してほしい」

（新野・No. 152）「那賀川・羽ノ浦両図書館を図書館法に基づく図書館として存続すること。常勤・正規任用の司書配置を基本とすること」

（宝田・No. 133）「司書のいない図書室は図書館ではありません。羽ノ浦・那賀川の利用者の不利益にならないようによく考えてほしい」

（加茂谷・No. 70）「絶対に続けてください」

設問 2：一部進化

（長生・No. 140）「那賀川・羽ノ浦が新たな型で残るのであればいいと思う」

（未回答・No. 164）「集約よりも分散の方が、広大な阿南市では市民の本へのアクセスが良くなる。2 館を中心に移動図書館・公民館図書室を充実させては」

（樺・No. 154）「図書館機能の縮小はやむを得ないと思います」

設問 2：大幅進化

（富岡・No. 20）「図書館としての機能は全く必要ありません。子育て広場や学童保育などのスペースを作ってほしい」

（見能林・No. 59）「書籍を収蔵する機能は中央図書館に。那賀川・羽ノ浦は市の計画にあるような交流やイベント開催に軸足を置く方向に賛成」

（宝田・No. 36）「図書館機能は必要ないと考えます。建物は近隣他公共施設と併せて集約先として検討してほしい」

設問 2：廃止・集約容認（少数意見）

（福井・No. 74）「新しい図書館ひとつだけあれば、那賀川・羽ノ浦図書館は要らないと思います」

（橘・No. 123）「新図書館を建設するのであれば、那賀川・羽ノ浦両図書館の存続には反対。読書テラス等ではなく、時代に即した新しい公共空間や民間への売却等の方向で」

（新野・No. 156）「羽ノ浦図書館または那賀川図書館だけで（図書館 1 つだけ）いいのではないのでしょうか」

6. 意見交換会でともに確認させていただきたいこと

いずれも、市が国との協議を有利に進めるうえでも整理が必要と考える点です。協働の姿勢で確認させてください。

- ・ 有利な財源（国補助・地方債）の対象施設（申請の範囲）に、羽ノ浦・那賀川両図書館は含まれていますか。旧阿南図書館・市民会館のみを対象とする設計は制度上可能でしょうか。
- ・ 「読書テラス」への移行後、貸出・司書配置など図書館法上の機能はどのように扱われますか。市が用いる「機能」という語の範囲を確認させてください。
- ・ 立地適正化計画では両館が「誘導施設（補完型）」として「保全・充実を図る」と位置づけられています。今回の方向性との整合をどう整理されていますか。
- ・ 意見募集では、当該地区外を含めて「存続」が最多でした。この市民意見を今後の方向性にどう反映されますか。

【出典】阿南市「『図書のまち阿南』構想」（令和 8 年 3 月）Ⅷ意見募集結果、および意見一覧（市ホームページ掲載）。意見募集期間：令和 7 年 10 月 1 日～11 月 30 日、総数 184 件。

【対象】上記 184 件のうち、回答者の地区が「羽ノ浦」「那賀川」以外の 67 件を抽出。地区別・年齢別の人数は市公表資料の記載どおりの客観データです。

【注】「中野島」は行政区分上は那賀川町域ですが、意見票で「那賀川」と別に記入されているため、票の記載どおり「以外」に含めています。

【設問 1・設問 2 の区分について】市は割合のみを公表し、どの回答者をどの区分に入れたかの一件ごとの内訳は公表していません。本資料の設問 1・設問 2 の人数（67 人分）は、市が示した区分の定義に沿って守る会が判定した参考推計値です。境界的な意見の判定により数ポイント変動し得ます。